

グラントウワ応援団通信

第 27 号

平成22年8月21日

事務局

0856・31・1860

思い出の展覧会

島根県立石見美術館

主任学芸員 川西由里

早いものでグラントウワは、開館五周年を迎えようとしています。この間、様々な展覧会を開催してきましたが、

私にとって一番思い出深いのは初めて担当した企画展、二〇〇六年夏の「森鷗外と美術」展です。

石見美術館は「森鷗外ゆかりの美術家の作品」を作品収集方針の一つとしているため、二〇〇〇年に建設室に就職した時から、鷗外と交友のあった画家や彫刻家の調査をしてきました。着任早々、「開館したら森鷗外の展覧会をやるように」と言われたものの、なにする学芸員になりたてのヒヨコっ子でしたので、本当にできるのかと不安でいっぱいでした。そんな中、静岡県立美術館と和歌山県立近代美術館という共同開催館がみつき、両館のノウハウを教わる事ができたのは非常に幸運でした。今もこの二館との交流は続く

ていて、作品を快く貸していただいたり、一緒に展覧会を企画したりしています。

鷗外というテーマも難しいのですが、展覧会で何より大変だったのは出品作品が多かったことです。作品は頼めばやってくるものではなく、学芸員がトラックに乗って一点一点お預かりに行きます。北は山形から南は熊本まで、三館で協力して三五六点を約七〇箇所からお借りし、そしてお返ししました。貸し借りに先立ち、書類や写真のやりとりも同じ数が必要です。当館が事務局だったので何百枚という書類を作る羽目になり、夜な夜なパソコンを打ちながら、学芸員には事務処理能力も必要なのだと思感しました。そして図録の原稿を書き、さらに分担して書いた原稿や作品写真を整理する作業もありました。三六八ページというボリュームは、空前絶後。サッカーワールドカップ・ドイツ大会に目もくれず、デザイン事

務所で徹夜をした甲斐もあり、本展の図録は、翌年の美術館連絡協議会の優秀カタログ賞をいただきました。鉄は熱いうちに打てといいますが、最初の仕事がこの展覧会だったおかげで、その後の仕事が随分楽にこなせるようになりました。(内容の深さはまた別の話ですが。)

ところで「森鷗外と美術」に匹敵する大展覧会が、十一月にやってくるのです。その名も「ロボットと美術」！トラックの台数は鷗外展を超えてしまいました。今回も精魂こめて準備しましたので、どうぞご期待ください！

グラントウワの 舞台業務課って

いわみ芸術劇場 小野修平

私の勤務している舞台業務課は、職員通用口から事務所に入るとすぐに机が並んでいます。机での事務処理業務はほとんど行わないので、課員全員が揃っている所はあまり見かけないと思います。それと黒い服装をしていることが特徴ですが、これは舞台上で裏方として作業にあたる為、目立ちにくい黒がベースになっているからです。

舞台業務課は施設の利用者に対しての舞台技術の提供が主な業務です。課員は六人いますが、「舞台技術」「音響技術」「照明技術」の三セクションに技術担当が分か

れています。

さて、主な業務である舞台制作のプロセスですが、事前の打ち合わせ・当日の舞台仕込み・リハーサル・本番と一連の流れに沿って、催しの舞台運営が滞る事無く行えるように業務に取り組んでいます。ここまでは劇場を利用した事がある方はご存じと思いますが、全国規模のコンサートなどがある場合の舞台業務課の役割はあまり知られていないと思います。自主事業として行っている催しの中で、プロ・アーティストのコンサートになると、多くは東京等から公演スタッフが専属で来ていますが、緞帳の昇降作業や舞台美術バトンの昇降操作、音響・照明に関わる劇場機材の取り扱いは、劇場技術スタッフがいないと公演が成り立ちません。公演専属スタッフから見ると、仕込み作業の開始から本番、撤去作業まで長時間に渡り技術立会があつて初めて公演が成り立っています。皆さんから見れば疑問に思われている方も多かつたことと思います。

今回は簡単に紹介させて頂きました。決して表にはませんが、舞台運営においては最重要な役割を持っています。舞台業務の特性上、職人気質で人前に立つのは苦手ですが(裏方なので...)意外と気さくな面も持ち合わせている課員が多いので、見かけたら気軽に話し掛けて下さい。いろんな舞台裏話もお伝えできますよ。



小山実稚恵さんのピアノ

情報ボランティア

大庭 明博

○ ショパン生誕二百年

今年にはショパンの記念年で、世界中で数多くの演奏会などが催され、祝祭ムード満開です。十一月二十一日(日)

のグラントワ五年ぶりのピアノ・リサイタルはオール・ショパン・プログラムで、ピアノの詩人・ショパンの名曲の数々が楽しめます。

○ 簡単な曲目の紹介です。

プログラムの前半はノクターン(夜想曲)から。ショパンは二十一曲のノクターンを作曲しましたが、その最初の二曲が演奏されます。第一番はほの暗い情緒の、うるわしい曲。第二番はショパンのノクターンのなかで最もピュラーで、甘く美しくロマンティックな作品です。続いて二十四のプレリュード(前奏曲)

は、調性の異なる二十四の楽曲の一つ一つが独立している小品集です。十五番め

の「雨だれ」は演奏時間も一番長くよく知られていますね。

プログラムの後半はワルツ(円舞曲)から作品六十四のチャイミングな三曲です。二十曲以上作曲されたワルツのうち、第六番の「子犬のワルツ」も演奏されますよ。続いて「アダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」は若き日のショパンがピアノの魅力を余すことなく発揮させており、タイトル通り華のある曲です。終わりはバラード(譚詩曲)。ショパンは四曲のバラードを書いていて、うち二曲が演奏されます。自由な形式の中にも確かな構成と華麗なピアノニズムは高い芸術性を感じさせます。

○ ピアニストは小山実稚恵さん

小山さんはグラントワ初登場ですが、旧石川県民文化会館には、九四年三月と九六年三月にリサイタル、

○二年十月には小林研一郎指揮日本フィルハーモニー交響楽団との共演で来られており、益田市にお出でいただくのは今回が四回目ではないかと思いません。謙虚で慎ましく温かいお人柄で芸術家としての芯をしっかりと持った、卓越した技術と音楽性を持つ国内有数のピアニストです。私はご本人とお話

してきたことがあるのですが、世界に名を馳せておられながら、少しも高ぶることなくその場のムードを和ませるような優しく柔らかい印象の人で、ステージ・マナーもその素敵な笑顔も相俟って大変好感が持てます。

○ 人気アンケート

あまたあるコンクールの中でも最高峰と言われるのがチャイコフスキー・コンクールとショパン・コンクール。この二大コンクールに入賞した榮譽を

持つ小山さんは、今年初めの「音楽の友」誌での「ショパン演奏のスペシャリストだと思ふ日本人ピアニスト」アンケートで、第一位の票を集め、特に印象に残る演奏ジャンルはピアノ協奏曲とノクターンとの投票結果でした。

○ 大ホールとピアノ

円弧状のラインがとてもゴージャスなグラントワ大ホール。ピアノの一音一音が、くつきりあざやかに隔々にまで響き渡ります。粒立ち良く耳に馴染む音響は、とてもピアノ演奏に適していて、小山さんが何百、何千あるいは無限大にある音色のニュアンスやイメージのポケットから、グラントワでショパンをどのようになら演奏されるのか楽しみに想います。

上、備中神楽「素戔鳴男命大蛇退治」
中2枚、高千穂夜神楽「鈿女」
下、石見神楽「天の岩戸」

グラントワ開館五周年記念グラントワ 神楽フェスティバル

「須佐之男命 ―岩戸・大蛇―」

いわみ芸術劇場 文化事業課 木原義博

神話のふるさと「島根」。この言葉のとおり島根県には「黄泉比良坂」や「八岐大蛇退治伝説」など神話由来の場所が数多く存在します。「古事記」「日本書紀」（いわゆる記紀神話）の三分の一は島根を舞台に展開されていると言われています。

記紀神話にも登場する神様・須佐之男命。この神様が今回の神楽フェスティバルのキーワードです。

通常、神楽イベントと言われる催し物はお客様が好む団体を招聘し、お客様が好む演目を演じますが、今回は先に述べたとおりキーワードである「須佐之男命」に係わりの深い「天岩戸伝説」と「大蛇退治伝説」のみに絞ってみました。

詳しくは神楽フェスティバルのチラシ裏面に「神話ストーリー」と題して記載しましたのでご覧いただくとして、文化事業にはいわゆる「買取事業」と「制作事業」があり、当事業は後者に当たるので、事業の組立てから出演交渉・打合せと半年から一年を費やして本番を迎えますので担当者の思いも強く、また、誰よりも知識が深いのも事実です。たとえば、「天岩戸伝説」の舞台となった宮崎県高千穂町の高千穂神楽はあま

りにも有名ですので説明は不要だと思いますが、長野市の戸隠太々神楽はどんな係わりがあるのかご存じの方は少ないと思います。高千穂で手力男命によって開け放たれた天岩戸の一つが長野市の戸隠まで飛んで行き、「戸隠山」になったといわれています。何と高千穂の天岩屋戸の岩の成分と戸隠山の岩の成分は同じとも言われています。また、戸隠山の麓にある戸隠神社・奥社のご祭神は手力男命。

「戸隠太々神楽」は今もなお、戸隠神社の神職により演じられていて、平安朝の遺風を伝え、かつて隆盛を誇った修験道の面影を残しています。話は少し逸れますが、戸隠神社・中社には川中島合戦の前に武田信玄公が戦勝を祈願した直筆の願文が保管されています。名武将もやはり神頼みをしたのですね。

また、島根県雲南市は「大蛇退治伝説」に係わりのある町ということに皆さんもご存じだと思えますが、須佐之男命が稲田姫と一緒に建てた日本で初めての宮殿・須我神社や「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」という歌を詠んだことをご存じでしょうか？そ

の他にも「大蛇が住んでいた場所」「天が淵」、「須佐之男命が箸を拾った場所」、「大蛇の八つの頭を埋めた「八本杉」などなど、その他にも数多くゆかりの地があります。一度訪れると神楽の見方が変わるかも知れませんね。

この続きは是非、十月三十日（土）にスタジオ1で開催されるオーブニングイベント 対談「岩戸・大蛇伝説とその神々」を聴講下さい。雲南市大東町にある古代鉄歌謡館の高橋館長と映像ジャーナリスト・山内登貴夫氏の話聞かれるとその後の本番がより楽しく興味深く鑑賞出来ます。

なお、今回は神楽イベントではめずらしく一階席を指定席にさせていただきましたので、当日は長時間並ぶことありません。どうぞ神話の世界をゆつくりとご堪能下さい。

伝説芸能と私

イベントボランティア

松本 伸子

今、私はグラントワで、「石見の夜神楽」のナレーションを担当しています。毎週一回 最初のころは本番のときに舞台袖で生で、現在は音響調整室で録音して本番で使われています。そのおかげで随分たくさんさんの演目を知りました。

関西に育ち、東京にいた二十代のころ 放送タレントとしてTBSラジオや日本テレビで仕事をしていた私にとってマイクの前でしゃべれる時間は、楽しいひとときとなっています。

石西県民文化会館のころには おもしろい貴重な体験をさせてもらいました。

それは 創作神楽「交響詩 オロチ」という舞台でした。市民吹奏楽団と市民合唱団によるオリジナル曲による演奏とコーラス、神楽社中の舞、そしてオリジナル台本で私は狂言回し（注1 物事の進行をつかさどる、ストーリーの説明に必要な役柄の人物）を務めました。そのときは碑田阿礼の役どころだったのでせりふを全部覚えたのは久しぶりのイトレーニングでした。またその一ヶ月後には 「伝説芸能のつどい」という舞台で司会とインタビューを務めました。伝説芸能にあまり縁のなかった私にとって、これも興味深い経験で楽しかったです。前夜祭の交流会でも司会進行しましたが、本番に向けて色々な段取りや勉強打ち合わせなどは大変でしたが、本番が終わった後は達成感に充実した気持ちをおぼわいました。やはり舞台にはなんともいえない気持ちのいい緊張感があり、おもしろいものがあります。

今はナレーションの他にさまざまなイベントで活動しています。最近、グラントワからの要請で益田高校放送部の指導にもかかわるようになり 子ども達と関われるのは新鮮で、自分の勉強にもなり意欲的に取り組んでいます。

十月末には大ホールで五周年記念神楽フェスティバルがあり、そこでも司会とインタビューをいたします。いつも本番前はドキドキですが、終わった後の満足感を味わえるように一生懸命取り組みたいと思っています。皆様 ぜひ応援をお願いします。そしてお時間がありましたらぜひ観にいらしてください。

グラントワで結婚式！

フロントボランティア 三浦圭子

七月三日、大ホールのホワイエは神聖な空気に包まれました。バージンロードを父と手をつなぎ、一步一步、彼の元へと歩み、彼と一緒に階段を上がり、誓いの言葉を述べ、結婚証明書へサイン。そして代理人の山崎名誉館長に証明のサインをしてもらい結婚が成立しました。

この日を迎えるまでには、いろいろと苦労がありました。こうして素晴らしい挙式を挙げられたのも、ポニイさんのお陰と言っても過言ではありません。白紙の状態から、一つ一つ作り上げていく作業は、全く分からない私たちにとって、不安もありました。しかし、ポニイの和田さんがいつも笑顔で大丈夫と、その都度助けて下さり、少しずつ流れが出来てきました。式も直前になってやっと次第が整いました。その時の達成感や言葉では表せないくらいのものでした。

当日は、緊張感に溢れていました。私はここまで苦労してきたのだから、本番は楽しもうと心に決め臨みました。そしてそれは思った以上に楽しい結婚式となったのです。挙式も披露宴も笑顔の絶えないものとなり、人生でこんなに幸せ



ができず、育て方が悪かったからかと先生に尋ねたこともあります。でも、写真、糸あやつり、剣道、グラントワのボランティアの方々に支えられ、少しずつ良くなっていくのを見てとてもありがたく、圭子はたくさんの人に助けられ、見守られているのだと感謝しました・・・と。涙が滝のように頬を伝って流れました。初めて聞いた母親の気持ち。でも、気持ちが聞けて嬉しく思いました。そして、披露宴は終りました。料理も、雰囲気も最高でした。お陰さまで、どこにもない素晴らしい結婚式ができました。グラントワで結婚式を挙げた事を、本当に良かったと今でも喜ばしく思っています。グラントワはいつも素敵な場所だとあらためて思いました。

【あ と が き】
この秋、グラントワは開館五周年を迎えます。早いものですね。記念事業が発表され、豪華で充実のラインアップが目白押しです。

美術館企画展は九月十七日より「神々のすがた 古事記と近代美術」が開催されます。昨年は石見の仏像展でした。今年は神様がテーマですね。続いて十一月二十日からは「ロボットと美術 機械×身体のビジュアルイメージ」です。面白そうです。アトムやドラえもんたちにも会えるかなあ(的外れですよ)

劇場でも楽しみ満載。NHK交響楽団来演によるモーツアルトの天上の美しい調べでスタート。さだまさし、浜田真理子、高橋真梨子でポップス・コンサートも充実。グラントワ合唱祭(グラントワ合唱団も出演)や島根邦楽集団演奏会。

オペラ公演はビゼー作曲の「カルメン」を、小山実稚恵ピアノ・リサイタルではショパンを楽しみましょう。

それから今年の「きんさいデー」(十月十日)は五周年記念感謝祭です。年内だけでもとても賑やかで多彩ですね。この秋、芸術の街・グラントワでいい思い出が沢山できますように。

(陽竊)